

性器手術で心と体の性を一致

公的保険適用高い壁

心と体の性が一致しない性別同一性障害(GID)の人が受ける性別適合手術に4月から公的医療保険の適用が認められたにもかかわらず、性器の除去と形成をする手術については、保険適用の事例が半年で1件にとどまる。13日、GID学会認定病院への取材で分かった。ほとんどの患者は保険が適用されないホルモン製剤投与の治療も必要のため、手術が「混合診療」とみなされて医療保険の対象外となる。費用が大きく変わらず手術が盛んなタイへの渡航につながっており、この分野の医師は「ホルモン治療は医学的に避けられず、保険制度が機能していない」と訴えている。

性別同一性障害

心と体の性が一致せず、体の性別に強い違和感を覚える症状。性的少数者(LGBT)に含まれるトランスジェンダーの中で、医学的な対応が必要な状態を指すという定義が一般的。原因は解明されていない。脳の機能は正常で、身体に欠陥や病気があるわけでもないため「障害」と呼ぶことに反対する意見もある。



ホルモン投与対象外

認定病院は4施設

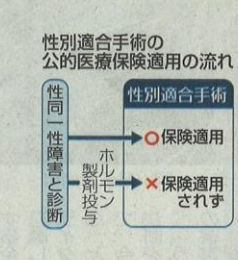


バンコクで手術を終え診察を受ける会社員(共同)

「手術は成功して良かったが、帰国後に痛みが出て不調が出た。約3年前からホルモンの治療を開始した。女性から男性の体になる手術を受けたい」と訴えていた。

公的医療保険の適用が認められにくい実態のある性別適合手術。国内で性別同一性障害(GID)の患者をめぐって、多くの患者がリスクを抱えながらこの治療を受けている。女性から男性の体になる手術を受けたいと訴えていた。北九州市の会社員28人は

やむなく渡航、成功してもリスク



「手術は成功して良かったが、帰国後に痛みが出て不調が出た。約3年前からホルモンの治療を開始した。女性から男性の体になる手術を受けたい」と訴えていた。

GID学会などによると、性別適合手術に関する手術は認定病院のみ。そのうち実際に患者を受け入れているのは札幌医科大学大附属病院、岡山大病院、山梨大病院、岡山大病院、沖縄県立中部病院の4施設。

半年で1件「制度機能せず」

性別適合手術にはほかに乳房切除があり、この手術は体内の変化が比較的小さいため、ホルモンを投与せずに保険が適用されることも多い。全額自己負担の際の費用は70万〜200万円ほどで、タイは渡航費を含めて50万〜200万円程度。国内の認定病院は予約が取りにくい状況だが、タイでは比較的早期に実施できる。

「手術は成功して良かったが、帰国後に痛みが出て不調が出た。約3年前からホルモンの治療を開始した。女性から男性の体になる手術を受けたい」と訴えていた。

「手術は成功して良かったが、帰国後に痛みが出て不調が出た。約3年前からホルモンの治療を開始した。女性から男性の体になる手術を受けたい」と訴えていた。